

第1 X線透視室



富士フィルムヘルスケア社製
CUREVISTA Open

低被ばく
鮮明画像

高性能デジタル
X線透視・撮影システム

処置中にベッドの移動がなく、縦横方向の視野移動を撮影映像系の動きのみで行うことができ、安全性が高くなっています。

少ないX線でも滑らかな透視像が表示できる映像補間技術を搭載しているため、X線被ばくを低減します。また、動き追従型ノイズ除去技術により、内視鏡検査などの体動があるときでも画質が向上しています。

X線の検出には、撮影した瞬間に歪みのない鮮明な画像を得ることができ、低被ばく線量での検査が可能なフラットパネル検出器 (FPD) を採用しています。

消化器領域だけでなく、整形外科・泌尿器科など多様な検査に対応できる高性能なシステムです。

第2 X線透視室



大視野での
検査が可能です

最大17×17インチで、
半切フィルムサイズの領域を全てカバー。

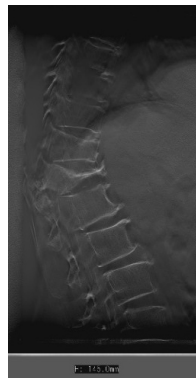
泌尿器では、DIP・尿管ステント留置等を行い、
また整形外科ではトモシンセシス・長尺(スロット)
撮影など様々な検査領域にも使用されます。



🔍 DIP



🔍 尿管ステント留置



🔍 トモシンセシス(腰椎)



🔍 長尺撮影(下肢全長)